

「3人だって、元気いっぱい」

日南市立酒谷小学校 養護教諭 越智真由美

酒谷小学校は、3年1名、4年1名、5年1名、全校児童3名の平地校です。豊かな自然に囲まれて伸び伸びと生活しており、今年度は欠席0が続いています。

少人数なので、全員で活動する機会が非常に多くあります。みどりの少年団活動は、少人数のためキャンプなどの校外での活動は困難となりましたが、学級園を家族毎の農園にし、多くの野菜を育てています。収穫の時期になると毎週、袋いっぱいの野菜を自宅に持って帰り、去年は「自分で作る弁当の日」のおかず作りに使ったりしました。

児童には、自分の気持ちを表現するのが苦手だったり、いやな気持ちの対処法を知らなかったりと、少人数ゆえにソーシャルスキルを他者から学ぶ機会がないという課題がありました。そこで「こころアップ」という心理学に基づくプログラムを活用した保健指導を、全校対象に行っています。回を重ねるごとに「自分の気持ちをつかまえて表現する」ことが自然にできるようになってきました。プログラムは高学年対象ですが、本校の3～5年生の理解度や実態に合わせて、アレンジして行っています。このように個の状態に合わせた指導ができるのは、小規模校ならではの良さではないでしょうか。

健康管理面での一番の課題は、「緊急時の対応」です。児童だけでなく職員も少ない上に、医療機関も遠く、救急車到着には約20分もかかります。そこで、職員研修で毎年シミュレーション訓練を行っています。訓練をした結果、職員だけでやるべきことを全て行うのは無理と分かり、「他の先生を呼ぶ」「AEDを持ってくる」は児童の役割とすることになりました。保護者と職員が心肺蘇生法講習会を受けている時間に、養護教諭が児童に指導しています。その際は具体的な場面を想定し、役割を交代しながら練習します。児童が真剣に使命感を持って動く姿は頼もしく、「何か起こっても、職員と子どもたちで何とかできる！」という安心感につながっています。

欠席もなく、3人がそろって毎日登校する姿に、「今日もがんばるぞ」と大人の方がパワーを補給してもらっています。

児童のおかげで、酒谷小は今日もみんな元気いっぱいです！